

[http://www](http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/)

# 国際・地域連携センター ニュースレター 〈第17号〉

〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2丁目17-47

TEL:088-844-8555 FAX:088-844-8556

<http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/>

編集責任者:吉用武史

## はじめに

### 10月3日の「土佐の日」に 大討論会と大懇親会が開催される!

毎年、10月3日は「土佐の日」と定めイベントが実施されています。今年はNPO法人全国異業種グループネットワークフォーラム(以下INF)とタイアップし「第11回INF全国大会 in 土佐の日」として同時開催することになりました。

第1部シンポジウムのパネルディスカッション「心の豊かさを実感できる幸福とは?」とのテーマに対し、壇上のみならず参加者との大討論会が行われました。本学の受田センター長がコーディネーターの一人として議論を進めました。

第2部では会場を三翠園に移し大懇親会が行われました。500名超の参加者となり、県内各地の郷土料理等が席上に並び、盛大な懇親会となりました。



## 目次

- p1 はじめに
- p2 地域連携・再生部門
  - Topic1. 黒潮がつなぐカツオネットワーク
  - Topic2. 土佐FBC幡多教室 閉講式
- p3 産学官連携部門
  - Topic1. 我が国の未来のイノベーションを支える科学技術の推進
  - Topic2. ものづくりの町「大田区」にてマッチングフェア
  - Topic3. JST A-STEP 探索タイプ 採択情報
- p5 知的財産部門
  - Topic1. イノベーション・ジャパン2012 開催情報
- p6 国際連携部門
  - Topic1. 10月入学・新入留学生対象オリエンテーションの実施
  - Topic2. 嶺南大学校(韓国)からの表敬訪問

## Topic 1. 黒潮がつなぐカツオネットワーク

### ～2012 カツオフォーラム in 宮古島～

本学と黒潮町の連携により運営している日本カツオ学会について、平成24年度のフォーラム「2012 カツオフォーラム in 宮古島」が、10月5日、6日に沖縄県宮古島市伊良部島公民館にて開催されました。当日は県内外からカツオに興味・関心のある様々な方、約160名にご参加いただきました。

基調講演:「沖縄のカツオの価値を問う」 沖縄大学名誉教授 上田 不二夫  
 パネルディスカッション:「離島におけるカツオ漁業のこれから」  
 コーディネーター 高知大学教授 受田 浩之  
 パネリスト 沖縄大学客員教授 長崎 節夫  
 カツオ船「第五喜翁丸」船長 漢那 一浩  
 本部漁業協同組合長 平安山 良修  
 (株)FBT プランニング代表取締役 久塚 智明  
 (株)かわまん商店代表取締役 川満 清隆

特別講演:「カツオ万歳 ～カツオ漁業を舞台にしたふるさと物語～」  
 前宮古島市教育長 川上 哲也

今回のフォーラムにより、宮古島市では「7月20日、8月20日、9月20日」の3日間を「カツオの日」と設定しました。これは、「カツオ」が「夏20」の語呂合わせとなっており、さらに夏場がカツオ漁の最盛期でもあることに由来したものです。



フォーラムの様子



フォーラム後の  
「カツオばんざい交流会」

## Topic 2. 土佐FBC幡多教室 閉講式

### ～修了証書を16名に授与～

7月21日から幡多地域を対象に開催していた土佐フードビジネスクリエーター(FBC)人材創出「幡多教室」について、9月29日に閉講式を行いました。四万十市立中央公民館を会場として実施し、最終日は9月30日の予定でしたが、台風による悪天候のため1日早めて閉講式を行うことになりました。

全33コマ(1.5時間/コマ)のうち、3分の2以上出席した受講者には、幡多教室修了証書を授与しました。今年は受講生24名のうち修了認定者が16名となり、幡多教室を開始した昨年とあわせて、計36名の幡多教室修了生を輩出することが出来ました。



閉講式後の集合写真

## Topic 1. 我が国の未来のイノベーションを支える科学技術の推進 ～産学官連携推進会議〈第11回〉開催～

9月27日、28日の2日間、東京国際フォーラムにて産学官連携推進会議〈第11回〉が「我が国の未来のイノベーションを支える科学技術の推進」をテーマに開催されました。

産学官連携推進会議とは、産学官連携の飛躍的推進に向けた具体的な課題の解決に資するため、第一線のリーダーや実務経験者等を中心に、具体的な課題についての研究協議、技術移転、情報交換、対話・交流等を行うものです。この会議により、産学官連携の実質的かつ着実な進展を図り、新技術・新産業の創出を加速することを目指しています。

本年度は、科学技術政策担当大臣より「第4期科学技術基本計画」の趣旨を総括する基調講演、科学技術の分野において産・学を代表する有識者からの特別講演、産学官連携の研究開発に取り組まれている研究者からの事例報告、並びに「科学技術イノベーションの実現のために」をテーマとした有識者によるパネルディスカッション等が行われました。

また、大学、公的研究機関、企業等における産学官連携活動において、大きな成果を収め、あるいは先導的な取組を行う等、産学官連携の推移に多大な貢献をした優れた成功事例に対し、内閣総理大臣賞等の授与及び受賞者によるプレゼンテーションが行われました。



## Topic 2. ものづくりの町「大田区」にてマッチングフェア ～第2回おおた研究・開発フェア -新製品・新技術展-～

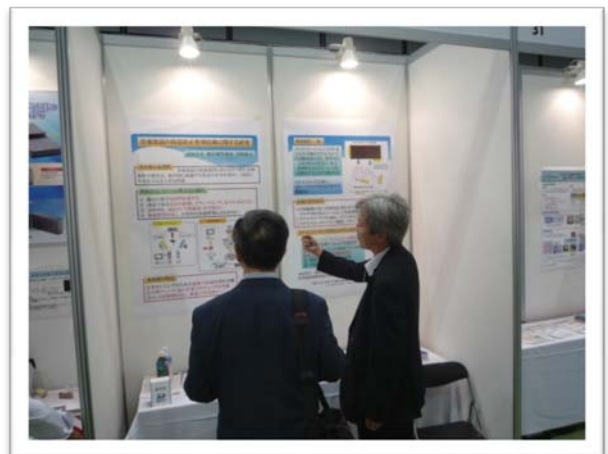
10月4日、5日の2日間、東京都大田区産業プラザPIOにて「第2回おおた研究・開発フェア」が開催されました。

本フェアは、ものづくりの町「大田区」において、大学と産業界の技術シーズとニーズの交流の場となることを目指した展示会です。大田区の企業だけでなく、全国の企業および大学が出展し、新技術や新製品、研究開発成果をPRすることで、今後の共同研究・製品開発・用途開発など、産産連携・産学連携に繋げることを目的に開催されました。

2日間で合計1,510名の来場者となり、本学からは自然科学系農学部門 河野俊夫教授の「冷凍食品の偽装防止管理技術に関する研究」についてポスター展示を行い、共同研究等、企業との連携を目指したコーディネート活動を行いました。



会場：大田区産業プラザPIO



石塚産学官連携部門長によるシーズ説明

## Topic3. JST A-STEP探索タイプ 採択情報

独立行政法人科学技術振興機構(JST)の研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)平成24年度第2回【FS】ステージ探索タイプの採択課題が公表されました。

高知大学からは以下の8件が採択されました。(申請件数:23件)

- ・高知県産ショウガを利用した嚥下機能改善品の開発  
臨床医学部門 宮村 充彦 教授
- ・医療・介護現場のニーズに対応した移乗動作介助機器の実用化  
臨床医学部門 石田 健司 准教授
- ・トロンボモジュリンの上皮増殖因子様構造を用いた血管内皮細胞保護薬の開発  
臨床医学部門 池添 隆之 講師
- ・健康食品成分を利用した保存加工食品の害虫防除技術の開発  
農学部門 手林 慎一 准教授
- ・世界初のアオリイカ人工受精・孵化技術の確立  
農学部門 足立 亨介 准教授
- ・簡便な抗酸化力評価用の電気化学センサー開発に関する研究  
複合領域科学部門 上田 忠治 准教授
- ・抗アレルギー海洋微細藻カロテノイドの開発  
複合領域科学部門 小野寺 健一 特任助教
- ・新規マイクロ波高活性化固体触媒の開発と、海藻バイオマスからのラムノース製造への応用  
複合領域科学部門 椿 俊太郎 特任助教

## A-STEP 探索タイプについて

A-STEP は、大学等の研究成果の実用化に向け、幅広い研究開発フェーズを対象に、異なるタイプの支援を繋ぎ合わせて課題解決型研究開発をシームレスに行う競争的資金です。このうち、FSステージの探索タイプは、技術移転の可能性を探索する研究開発について支援するものです。

### 探索タイプ

- 大学等の研究者とコーディネータ等の共同申請
- 研究開発期間:最長1年間
- 研究開発費:基準額 170万円(間接経費を含む)

全国から3,634件の応募のうち、1,123件の採択がありました(採択率:約31%)。本学の採択率は、23件中8件となり、約35%でした。

### 採択課題の分野別内訳

グリーンイノベーション	264件 (24%)
ライフイノベーション	450件 (40%)
ナノ・材料	228件 (20%)
情報通信技術	63件 (6%)
社会基盤	118件 (11%)



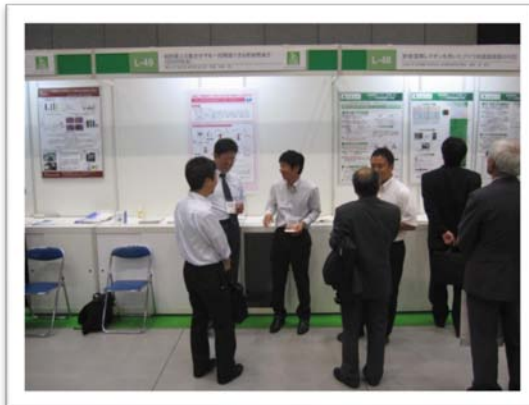
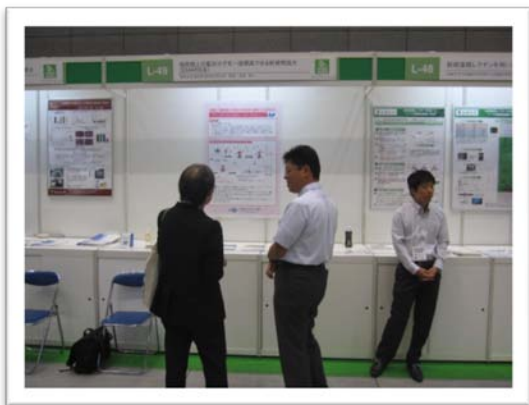
詳しい採択情報は↑をクリックしてください

## Topic 1. イノベーション・ジャパン2012 開催情報

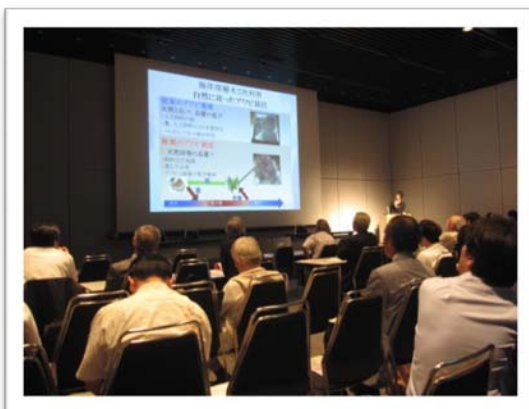
9月27日・28日の2日間、東京国際フォーラムにて、独立行政法人科学技術振興機構(JST)と独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の主催によるイノベーション・ジャパン2012が開催されました。

本学からは、医療学系基礎医学部門 本家孝一教授発明による「細胞膜上の集合分子を一括標識できる新規標識法(EMARS法)」についてポスター展示を行うと共に、本技術を用いて既に製造・販売を行っている研究用試薬について広報を行いました。当日は、四国 TLO から安田氏が応援に来ていただき、詳細な技術情報の説明等をしていただきました。

数社の企業等から訪問・面談を受ける等、本技術に高い関心を示していただきました。



また、野村イノベーションクラブ主催により特別協賛シンポジウムとして開催されました、新事業に取り組む若手大学発ベンチャーの取組において、本学大学院総合人間自然科学研究科黒潮圏総合科学専攻(博士後期課程)の蜂谷潤氏が「海洋深層水を利用したアオノリ、コンブ、アワビ養殖」の取組等についてプレゼンテーションを行いました。



## Topic 1. 10月入学・新入留学生対象オリエンテーションの実施

平成24年10月1日(月)に朝倉キャンパスにおいて、10月入学の新入留学生34名に対し、本学での学生生活を安全・快適に送るためのオリエンテーションを行いました。

はじめに、菊地副学長(国際・地域連携担当)から、異なる文化を実際に目で見て肌で感じて、多くの日本人と交流し、留学生生活を豊かなものにしてほしいとの挨拶がありました。

国際連携部門の教職員紹介の後、保健管理センター所長からの健康管理、国際連携室職員による留学生活での留意事項、高知南警察署署員による防犯教室、留学生支援団体である高知大学留学生を支援する会の物品貸出などの説明が行われました。

オリエンテーション終了後、国際連携部門が実施する日本語課外補講の受講希望者のためのプレースメントテストを実施しました。



## Topic 2. 嶺南大学校(韓国)からの表敬訪問

平成24年10月5日(金)に、韓国の嶺南大学校から朱祥佑国際交流担当副総長ほか国際交流担当職員2名が本学を訪れ、菊地副学長(国際・地域連携担当)、国際連携室職員と両校の紹介及び教育環境に対する取組みについて意見交換を行いました。

同大学は、1947年に創設され、1967年に嶺南大学校となり、14単科大学、6つの独立学部、10の専門大学院を有する大学です。日本の大学との交流として、「ジャパン・プロジェクト(Japan Project)」による交流・協力及び学生交換プログラムを実施しています。

現在、本学と交流協定は未締結ですが、学術交流を新たに計画する上で有意義な機会となりました。

